

台湾ボッチャ競技選手にロボットスーツHALを用いたトレーニングを実施

理学療法学科 齋藤恒一

平成 29 年 1 月 25 日、理学療法学科の畠中泰彦教授、多田智美助教、齋藤恒一助手、山口和輝助手は、科学技術振興機構（JST）の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」（採択校：大阪府立大学）の一環で来日した台湾国立和美実験学校、台北市立大学の脳性麻痺などの障害があるボッチャ競技選手を対象に、ロボットスーツ HAL を活用したトレーニング（見学及び体験）を実施しました。また、台湾の研究者との学術交流、情報交換も行われました。これは、大阪府立大学の HP でも紹介されています（写真は参加者に HAL の説明とトレーニング体験を実施中の畠中教授）。

[注] ボッチャ競技とは？ ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ 6 球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプス）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます（日本ボッチャ協会 HP より）。



